



仮置き場から運ばれた除去土壌等の積み下ろしを行うために
整列して待機する輸送車両（2022年1月撮影）

●トピックス●

安全第一の輸送を支えた技術と人

今号は、福島県内で進められている除去土壌等の輸送事業における、安全確保と現場対応の工夫を紹介します。

中間貯蔵事業情報センターでは、10のコーナーに分けて展示を行っておりそのうちの1つ「環境再生事業のフローと安全対策」では、現在に至るまで実施されている除染、除去土壌等の輸送、中間貯蔵等について紹介しています。その中でも輸送事業に着目し、中間貯蔵・環境安全事業株式会社（JESCO）から話を伺いました。

Q 除去土壌等を安全に輸送するために、どのようなことを実施しているのでしょうか。

A 当初、県内各所にあった仮置き場の早期解消のため、全国各地からプロドライバーが集まり輸送を担うことになりました。同時にドライバーだけに頼らない仕組みとして、全ての輸送車両の位置情報をシステム上で常時確認するとともに、輸送会社はドライバーからの連絡をいつでも受けられるよう待機するなど、緊急事態に備える体制を構築しました。

緊急事態では、刻々と変化していく状況に的確に対応する必要があり、ドライバーに対しては、安全教育や緊急事態を想定した訓練、輸送コースの事前試走など、安全を第一とした大量輸送を支える取組を実施しているそうです。JESCOにおいては日々のマニュアルの確認や、様々なパターンを想定した訓練を実施しています。

Q かつて1日3,000台もの輸送車両が運行されていた時期も

あったと伺っており、輸送中は常に緊張した状況にあると想像できます。

A 予定外の場所で停車している車両や、ルートを逸脱した車両については、アラームが鳴るように設定されています。アラームが鳴れば直ちにその理由を把握する必要があり輸送監視ルームは常に緊張状態であると言えます。

Q 除去土壌等の輸送において、常時監視がいかに重要であったかがわかります。

A JESCOは特に常時監視を行うシステムの運用を担っています。システムに不具合が起きてしまうと、除去土壌の輸送を一時中断せざるを得なくなり、事業に遅れをきたしてしまいます。そのような事態にならないよう、常に気を付けています。

これまで輸送事業で大きな人身事故が発生しなかったのは、こうした取組を着実に実施するとともに、関係者が一丸となって「事故を起こさない!」という信念で取り組んできた成果であると言えます。



輸送車両の位置を常時確認するための輸送監視ルーム

● 福島大オープンキャンパス 除染土ワークショップブースに100人来場

投稿者

福島大学行政政策学類2年 神長 滯

福島大学で7月19日・20日に開催されたオープンキャンパスにて、「全国の学生と作る除染土処分ワークショップ」協働プロジェクトの紹介ブースを設置し、県内外から約100人の方にご来場いただきました。ブースは福島大学の学生5人と東北大学の学生1人の計6人で運営し、除染土に関する知識の普及と活動の紹介を目的に企画しました。ブースでは、福島大学の授業に関する紹介のほか、除染土の基礎知識、昨年度の活動の様子、今後の活動方針などをパネル展示しました。

来場者からは、「除染土についてより知りたい」「除染土に対して、自分事として捉えていきたい」といった声が寄せられました。特に、福島県内から訪れた高校生は除染土について一定の理解を示した一方、県外から訪れた高校生の認知度が低く、情報発信の必要性を改めて認識しました。

私たちは今後、県内の高校で除染土に関するワークショッ

プを開催する予定です。この除染土に関するワークショップは、参加した方に除染土について正しい知識を身に付けていただくこと、除染土



福島大オープンキャンパス当日

について自分の意見を持っていただくことを目的としています。ワークショップを通じて、県内の若者が今、除染土に対してどのような思いを持っているのか把握するとともに、除染土問題を認知度の低い県外の方にどのように発信するかを一緒に考えていきます。

Instagram (@fukushima_jyosendo) に除染土に関する情報のほか、ワークショップの開催、今後の活動に関する情報などを投稿していきますので、関心のある方は、是非フォローをお願いいたします。

● 第11回知のネットワーク会合を開催しました！

第14回環境放射能除染研究発表会企画セッションにおいて、第11回知のネットワーク会合を開催しました。今回の会合では、「理解醸成活動～福島から全国へ～」と題して、東日本大震災・原子力災害伝承館、公益財団法人福島県観光物産交流協会、大熊町で地域のつなぎ役、調整役として活躍する HITOkumalab、環境省、中間貯蔵・環境安全事業株式会社 (JESCO)、からそれぞれの取組についてご発表がありました。

また、それぞれの発表後、立教大学環境学部開設準備室准教授である森先生の進行のもとで各講演者を交えて総合討議を行いました。討議の中では、除去土壌等の県外最終処分と復興再生利用の理解醸成について、ターゲット

となる層や、理解醸成のための「場」と「仕掛け」についてそれぞれの立場から議論が交わされました。発表資料はJESCOのホームページでも公開しております。



ホームページはこちら



情報センターだより

▼見学者アンケート

●ひとりでも多く現場を見て知ってもらうと違うと思います。住民の方々の思いを考えると再生利用の必要性を感じました。／50代 鹿児島県

●2045年の親世代である私たちのような若者に対して、より知る機会を与えることで、いざ再生利用する時に早く進むのではないかと考えます。／30代 大阪府

●対話の機会を増やし、国民の議論を始める必要があると思う。納得できるような形で、再生利用や県外での処分について実施していく必要があると思う。／40代 福島市

▼情報センター見学のご案内

中間貯蔵事業情報センターは無料で見学できます。中間貯蔵施設見学は事前に予約が必要となります。



福島県双葉郡大熊町大字下野上字大野 116番5
開館時間▶ 9:00～17:00 (最終入館 16:30)
休館日▶ 毎週火曜日 (祝日の場合は翌平日)、
年末年始 (12/29～1/3)

編集後記



- 今年3月15日の開館以降、中間貯蔵事業情報センターの来館者数が1万人を超えました!! (館内の大熊町・双葉町の魅力をみんな自由に書いて発信する「未来を描く」ゾーンでは、多くの方に記入いただき、賑わいを見せています。)

レターに対するご感想やご意見、ご要望を下記メールまでお寄せください。
johocenter@jesconet.co.jp



発行: 中間貯蔵・環境安全事業株式会社
知のネットワーク 運営チーム